

●シリーズ●わが町の文化財へ95

世羅町重要文化財 吉祥寺の鐘樓

平成7年12月15日指定

鳳林山吉祥寺は、当山古文書「鳳林山実録」元文3年（一七三八）によると、治承4年（一一八〇）奈良興福寺吉祥院円寛和尚により、本町長田篠村谷に創建されたとあります。その後、歳月を経て、享保十七年（一七三二）、松本惣右衛門智陳によって現在地に移築されました。

それまで、この地は小谷山という古寺跡であり、既に薬師堂や弥陀堂・松桂亭などの堂宇が存在していたとされています。

山門を入って、正面には僧堂（庫裏）、左に本堂、更に奥に薬師堂があります。そして、右手にあるのが、宝暦十年（一七六〇）に建てられた鐘樓です。この鐘樓は唐風の建築で、この地方では大変珍しい建物です。木造、土塀塗りで、屋根は銅板葺きの方形入母屋造です。間口及び奥行は3.8m、高さ約7m。懸魚と破風板に時代の特徴が表れています。建物は構造堅固で組木装飾は美しく、堂の姿形は古雅な形をとっています。



▲組木



▲懸魚と破風

●シリーズ●わが町の文化財へ96

世羅町重要文化財 石造五輪塔

昭和44年11月20日指定

かつて多宝塔のあった塔の岡にあり、火輪の一端を欠損しているほかは完存で、2.33mの高さは、郡内一の大きさを誇っています。梵字や銘は見られませんが、形式からみて鎌倉時代末期の造立と推定されています。安楽院の僧常操じょうそうにより宝暦3年（一七五三）に書かれた「今高野山記」には、「塔岡 古三級大塔今但存基趾而 又有願主石碑牌年古失字」とあり、願主とは、元亨3年（一三二三）に塔の岡に多宝塔を建立した仏子了信（良信）で、東上原の久代谷に居館を構えていた久代氏を指すものと推測されています。この五輪塔は、奈良西大寺の叡尊の塔を模して造立された郡内でも大型の五輪塔とされています。

町内における大ぶりの五輪塔としては、賀茂の善法寺参道脇の塔や伊尾の下津屋十二坊跡の塔などがあります。

